



未来を夢見て Season3

2023/3/13 No. 180

6年生（先輩）から5年生（後輩）へ～大切な伝統（こと）は背中で伝える～

週末、近くの公園に行ってみると、満開の梅の木側に黄色いつぼみが膨らんでいるのに気がつきました。サンシュユです。春先に葉が出る前に黄色い花を咲かせ、秋にグミに似た赤い実をつけます。先週は3月なのに温かい日が続きました。夕方校長室から外を眺めると、夕陽に空がオレンジ色に染まり、とても美しい風景を見ることができました。この風景が見られるようになると、小野小学校にも春の訪れです。



児童会の引き継ぎ式を終えてから、朝の校庭では早速6年生から5年生に校旗掲揚のノウハウが伝えられていました。6年生の様子を真剣に見守る5年生の子どもたちの姿に、先輩から伝統を引き継ぐ5年生の子どもたちの責任感の強さを感じました。校旗の掲揚は、小野小学校の30周年を記念して始めたことです。毎日6年生が私たちの愛校心の象徴として掲げている姿を全校児童が見守ってきました。「大切な伝統（こと）は背中で伝える」以前、先輩から教えられた言葉です。

今週卒業式を迎える6年生は、児童会活動だけでなく行事や挨拶、礼儀作法でも全校のお手本でした。火曜日の予行練習には今年は5年生も参加します。きっと6年生の姿からまたたくさん学び、そして来年の自分たちの卒業式へと思いを馳せることと思います。



5年生の音楽では、本校を令和3年3月に御退職された佐藤雅子先生を講師に迎え、日本の伝統音楽に親しむ授業が行われました。雅子先生が実際に琴で音階をつくる過程や優雅な演奏に子どもたちは静かに耳を傾けている姿が見られました。また、同じ3階の理科室では、南海トラフの巨大地震の発生するメカニズムや可能性について、浩一先生（写真右は若かりし頃）が豊富な資料と巧みな話術で子どもたちに解説していました。大先輩お二人の子どもと向き合う様子を見ていると、子どもにしっかりと伝えたいものがあるからこそ、子どもたちが惹き付けられているように思えます。そして、その伝統が多くの小野小学校の職員にも伝えられていることを感じる温かい春の一時でした。

（文責：手代木）